| 科目ナンバリング | U-LAS70 10001 SJ50 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目名<br><英訳> | ILASセミナー ：視覚科学<br>ILAS Seminar :Vision Science | | | 担当者所属<br>職名・氏名 | 人間・環境学研究科 教授　齋木　潤 | | |
| 群 | 少人数群 | 単位数 | 2単位 | 週コマ数 | 1コマ | 授業形態 | ゼミナール（対面授業科目） |
| 開講年度・<br>開講期 | 2024・前期 | 受講定員<br>(1回生定員) | 10 (10) 人 | 配当学年 | １回生 | 対象学生 | 全学向 |
| 曜時限 | 水5 | 教室 | 共北35 | | | 使用言語 | 日本語 |
| キーワード | 認知科学 / 心理学 / 実験手法 / 眼球運動測定 | | | | | | |

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

**[授業の概要・目的]**

講義形式の授業では伝えることの困難な「視覚科学」の研究の実際の現場に触れ、視覚による認識過程を科学的に研究する方法に関する知識を体験的に得ることを目指す。具体的には担当教員の研究室で行っている研究手法（行動実験、fMRI実験、眼球運動測定実験など）を取り上げ、実験現場への参与観察（実験協力者としての参加を含む）と、実験手法に関するチュートリアルとディスカッションを通して研究の実際を理解する。

**[到達目標]**

視覚に関する心理学実験を体験することにより、実験研究の基本的考え方を体験的に学ぶ。教科書的な知識と研究現場の関係、つながりを理解する。

**[授業計画と内容]**

前期のILASセミナー：視覚科学では、各研究手法による基本的な実験などを取り上げる。

第１回：オリエンテーション(必要な場合は履修制限)
第２回：視覚科学の研究手法の概説（レクチャー）
第３回：行動実験１（心理物理実験）実習
第４回：行動実験１（心理物理実験）結果の予測（グループディスカッション）
第５回：行動実験１（心理物理実験）結果の解説、まとめ、ディスカッション
第６回：行動実験２（認知実験）実習
第７回：行動実験２（認知実験）結果の予測（グループディスカッション）
第８回：行動実験２（認知実験）結果の解説、まとめ、ディスカッション
第９回：眼球運動測定実験　実習
第10回：眼球運動測定実験　結果の予測（グループディスカッション）
第11回：眼球運動測定実験　手法、結果の解説、まとめ、ディスカッション
第12回：ｆMRI実験　実習
第13回：ｆMRI実験　解説とディスカッション
第14回：まとめ、質疑応答、全体のディスカッション
第15回：フィードバック

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点]**

参加者は毎回の授業に出席しディスカッションに参加するとともに、各回の授業に関してPandAでコメントを提出する。これを平常点とする。また、授業で取り上げるテーマごとにレポートをまとめ提出する（計4回）。レポートの内容は

ILASセミナー ：視覚科学(2)へ続く↓↓↓

**ILASセミナー　：視覚科学(2)**

**・授業内容のまとめ（研究手法についての知識の整理）**
**・その研究手法を用いた具体的な研究のアイディア**
**・その研究手法に関する意見（手法の限界、利点、改善点、など）**

**成績評価の方法**
**平常点　２５％　発表・レポート　７５％**
**素点（100点満点）で評価する。**

**[教科書]**

**使用しない**

**[参考書等]**

**（参考書）**
**授業中に紹介する**

**[授業外学修（予習・復習）等]**

**授業時間外にデータ収集や実習を行う場合がありうる。**

**[その他（オフィスアワー等）]**